

2023.04.15 予選 / 04.16 決勝

# 2023 AUTOBACS SUPER GT Rd. 1 OKAYAMA GT300km RACE



この活動は多くのスポンサー様に支援されています



# 目次

P3. SUPER GT について

P4. レース結果（予選、決勝）

P5. 日産メカニックチャレンジとは

P6. インタビュー（プロフェッショナル領域）

近藤真彦監督

名取鉄平選手

J. P. オリベイラ選手

TS 笠井 哲也（香川日産）

TS 山岡 寛尚（日産プリンス兵庫）

TS 来治 勝利（日産サテリオ岡山）

P11. 学生インタビュー（ホスピタリティ領域）

伊原 一輝（3年）学生統括

田中 真翔（3年）ホスピタリティ

曾束 昂祐（2年）ホスピタリティ

P14. 学生インタビュー（テクニカル領域）

田中 雄太（3年）テクニカル

加納 愛奈（2年）テクニカル

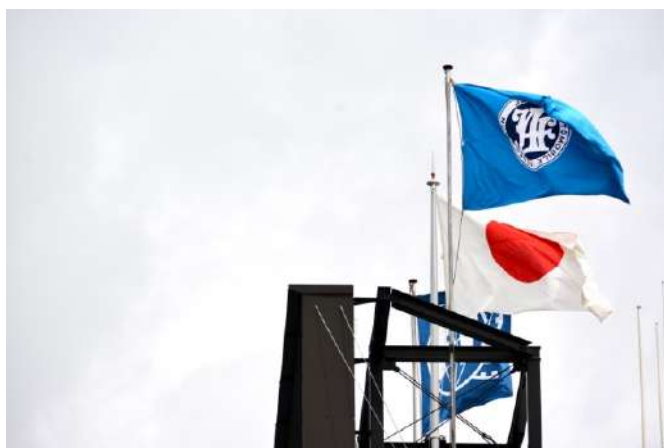
松下 颯汰（3年）ドライバーサポート

P17. レポートまとめ



# SUPER GT とは？

GTとはGrand Touring（グランド・ツーリング）の略称で、市販車に大掛かりな改造を施したレーシングカーのことを指します。そのGT車両によって争われる国内最高峰のレースシリーズが「SUPER GT」です。



SUPER GTは、「GT500クラス」と「GT300クラス」の2つのクラスの車両が同時に走行しているのが特徴です。その内、わたしたちのチームである『56号車：リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R』は「GT300クラス」に参戦しています。

更に、直近では2022年のシーズンで、見事シリーズチャンピオンを獲得しています！

そして、SUPER GTのレースをさらにおもしろくしているのが、「サクセスウエイト制」という独自のルールです。これはクルマにサクセスウエイトという重りを積むことにより車両の重量が増加し、運動性能を調整し、クルマのパフォーマンスをレースごとにある程度均一化します。それによるレース内でのバトルを増やすことが目的です。入賞者には、次戦レースで獲得ポイントと連動したサクセスウエイトが課され、シリーズを通して勝ち続けることが難しくなっていくところも見どころです！

シリーズ	総合順位	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	ポイント
2020	1位	4位	5位	9位	20位	1位	16位	1位	2位	71
2021	2位	1位	7位	3位	26位	3位	11位	3位	5位	55
2022	1位	1位	7位	3位	6位	13位	4位	5位	19位	74.5

↑ 56号車これまでの戦績

担当：森岡



## レース結果

4/15 (土) 公式予選

天候：雨 路面：ウェット 気温：15℃

路面温度：14℃

雨が降り続き、コース上の水量も多い状況でコンディションを鑑みて予選時間の5分延長が宣言されました。



Q1はA・Bの2組に分かれて行われ、A組である56号車は、雨の中でも確実にQ2進出できるようオリベイヤ選手をドライバーにスタートしました。しかしA組残り5分のタイミングで雨脚が強くなったため、赤旗中断となり、このままA組の予選は終了となりました。それでも、1' 45.029秒をマークし、14台中6位でQ1を突破し、予選Q2へと進出しました。続けて予選Q2は、雨が上がり、路面はウェットのまま、名取鉄平選手をドライバーにスタートしました。公式練習で1' 39.616秒だったタイムを、1秒以上縮め、1' 38.241秒というタイムで、予選8位というポジションを勝ち取りました。

4/16 (日) 決勝

天候：曇り～雨 路面：ドライ～ウェット 気温：19℃ 路面温度：30℃

晴れ間の見える曇り空のなか、名取鉄平選手をドライバーに決勝戦がスタートしました。しかし、すぐに雨が降り出し強さが増していき、コース上でストップしてしまう車両が相次ぎました。それに伴い、FCY（フルコースイエロー）を挟み、SC（セーフティーカー）の導入が行われました。落雷の危険性から、レース中断を意味する赤旗振られました。その



後レースは再開されましたが、またしても天候の悪化により、赤旗中断。レース残り10分に迫った頃、SC先導で再開されましたが、そのまま3度目の赤旗により、レースが終了することが宣言されました。この波乱な展開の中、56号車は何事もなく無事に帰って来ただけでなく、ポイント圏内の10位に入りました。

担当：森岡



## 日産メカニックチャレンジとは？

「ひとりでも多くの若者をクルマ好きにしたい」という思いから2019年にスタートした、日産自動車、日産自動車大学校、KONDO RACING TEAMが共同で取り組む人材育成プロジェクトです！

全国の日産販売店から選抜されたテクニカルスタッフと日産自動車大学校の学生が、近藤真彦監督率いる『KONDO RACING TEAM』と共に、国内最高峰レースである「SUPER GT・GT300」の舞台に挑みます！



販売店のテクニカルスタッフはレース1週間前から予選、決勝当日までKONDO RACING TEAMと全ての活動を共にし、日々の業務で培った技術力を武器に、チームの一員としてレーシングカーの整備などを行うことで勝利に貢献するだけでなく、普段の業務では得ることのできないスキルや経験の獲得を目指します！

学生は「ホスピタリティスタッフ」「テクニカルスタッフ」「ドライバーサポート」「広報スタッフ」に分かれ、この真剣勝負の場で社会人として必要な主体性、チームワーク、おもてなしの心、感謝の気持ちを培い、学生がチャレンジして学び合うことをプロジェクトの目的としています！



担当：森岡



## インタビュー（プロフェッショナル領域）



近藤真彦監督

### 【実力で前に行きたい】

上手くいってないチームほど荒れたレースになってほしいと思う。それは戦況が荒れることにより、ギャンブル的要素で上位を狙えるチャンスが増えるから。しかし、近藤監督は『うちのチームは昨シーズンチャンピオンになり、上手くいっている。だから荒れていなくても上位を狙える』と王者の貫禄を見せた。

GT300には様々なルールがありGT-Rには厳しい条件が課せられている。KONDO RACINGは今年度もドライバーやタイヤメーカーとのパフォーマンスを上手く組み合わせ、『万が一開幕戦で上手くいなくても監督として最後まで諦めずにチームをまとめ上げたい』と先を見据えていた。



最後に、レースや車に携わって自動車の仕事の魅力を知って現場に来ている学生は現場の雰囲気を感じているはずなので他の学生たちに感じた事を広めて欲しいと参加した学生にお願いをしていた。

担当：井上



## ドライバー 名取鉄平選手

### 【心機一転】

今年度 KONDO RACING に加入して2回目のフルシーズン参戦で去年から急遽日産に入り、とりあえずホッとしています。

日本の得意なサーキットは SUPER GT と SUPER FORMULA LIGHTS で両方コースレコードを持っていたモビリティリゾートもてぎです。

SUPER GT と SUPER FORMULA の違いはもちろん GT には屋根があって、車の大きさも全然違いますし、最近では GT300 でもダウンフォースをよく使っていてタイヤもとてもグリップのいいものを履いているのでドライビングはそこまで変わらず、比較的乗りやすいですよ。

担当：池村



## ドライバー オリベイラ選手

### 【気分は快調だ】

私はカーレースの中で最も面白いと思うレースはこのSUPER GTです。

SUPER GTは数々の出来事が起こり、常に刺激的で、ドライバーである私たちにもワクワクさせてくれる最高のレースです。したがって、雨の降る今回のサーキットは、路面コン

ディションにより、勝負が大きく左右されることが考えられます。

もし今回が荒れたレースになろうと、私たちはどんな環境下でも『ただベストを尽くして戦い、いい結果を残すだけ』です。そのため、応援してくれる皆さんには、劇的で興奮するようなレースをゴールまで楽しんで見てください。

担当：森岡





## 香川日産自動車株式会社

笠井 哲也さん

### 【引き締まる体験】

来る前は画面の中で見た車を整備できると思いワクワクしていました。しか

し、蓋を開けてみれば、極限の速度で走る車の整備をレースメカニック達が行っている作業の効率化や普段体験できない整備をさせていただけたためドキドキしました。作業スピードであったり効率化であったり、普段自分たちの職場では体験できないため気が引き締まりました。また、私たちの組み付けた部品でレースを走るため、ミスの一つも許されなく、心が引き締まりました。

今回の参加した事で得た事は今後の整備で活かしたいです。

学生さんには、「部品名称などの勉強は勿論ですが、今のうちに社会に出てからでも心置きなく相談でき、助け合いができる仲間作りをしてお

くと良いと思います」とアドバイスをいただきました。



担当：井上







## 日産プリンス兵庫販売株式会社

山岡 寛尚さん

### 【普段の延長線】

速度が 250km 以上出るレーシングカーは  
ネジひとつ外れるだけで車がバラバラにな

ってしまう恐れもあり、公道を走っている車も勿論ですが、不具合があれば凶器になりかねないので一層気を引き締めて臨みました。

ほとんどの人が見ることばかりのレース車両を整備したり、間近でエンジンの音が聞けることと自分が手を加えたマシンが走っているところを見ると「あ！走っているんだな」とワクワクします。

学生の皆さんにはどうすれば効率よくできるのかを実習の中で考えながらすれば働いてから即戦力になります。

入社していきなり作業ができるわけではないので、自分の中で段取りができるようになればいいですね。



担当：池村





## 株式会社日産サテオ岡山

来治 勝利さん

### 【コンマ単位の整備】

お客様にフィードバックできるように、国内最高峰のレースメカニックの技術を少しでも盗んで帰るつもりで参

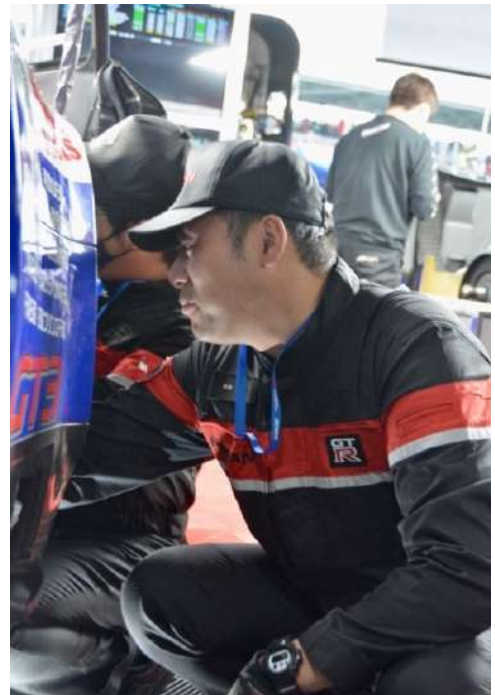
加しました。

ハイパフォーマンスな車の整備は活かせることが多く、普段している作業の裏付けになり、間違ったことはしていないと感ずることができました。

細かい作業も多いですが、機構が違えど同じ車の整備には変わりありませんからね。

教科書で学ぶことと現場に出てするところは違うよと言う人がいるがそうではないということを学生の皆さんには知ってほしいです。

自動車業界は新しいことが絶えず出てくるので今のうちに基礎を固めておくと将来必ず役に立ちます。そして、ノウハウが蓄積し、引き出しが多くなって替えのきかない存在になれると思います。



担当：池村



## 学生インタビュー（ホスピタリティ領域）



### 学生統括（3年） 伊原 一輝

#### 【自分の意見に対して自信を持つ】

初めて学生統括というポジションで活動することになり、不安と楽しい気持ちで挑みました。

ここで特に意識したのは「全体を見る」ということです。その日の作業内容を事前に考

え、確認し、作業に取り掛かる前に全体に共有することを心がけました。そうすることで、今考えるべきことが明確になり、チーム全体を見れ、個々が自分の役割をスムーズにこなせました。

こうして成功できたのは、学生それぞれでコミュニケーションをしっかり取っていたからです。それはこの日産メカニックチャレンジの1番の魅力だと感じました。団体でしっかり行動するには、チーム内で、もしくはグループ内で自分で考えて行動できるか、自分の意見を発言できるかが重要になってきます。これには連携やコミュニケーションを取ることの大切さが含まれ、一人のミスが全体へ影響するという学びを得られます。こうして自分も成長でき、レースも間近で見れ、他では体験できないプロジェクトだといえるので、積極的に参加するべきだと私は思います。



担当：森岡



## ホスピタリティ（3年）田中 真翔



### 【輪を広げる】

このホスピタリティという活動は、スポンサー様や販売会社の社長様など多くのお客様が来てくださるなかで、おもてなしを主に行う領域になります。慣れないことも多く緊張する場面ではありますが、笑顔で対応することを心がけていました。

そこで私は目上の方と接する時の言葉遣いや礼儀、作法を学習できました。「ドリンクを提供する時や、ご注文を伺いに行く時など、接客をする際は、すべてお客様の左側から行う」のような普段では知り得なかったことを学べるのはこの領域の魅力です！

そして、レースのスタッフとして体験出来ることはなく、こうして裏側の仕事をしたり、車と触れ合えたりするのはいい刺激になって、新しい目線が増えると思います。更に、他の学年と関わる事があまりないなかで、日産メカニックチャレンジに参加することで輪を広げることが出来ます。それが自分のコミュニケーション力の向上にも繋がり、自分の成長にも直結するので、もっともっと色々な方々にこのプロジェクトを体験して欲しいと思っています！



担当：森岡



## ホスピタリティ（2年）曾東 昂祐



### 【感謝の気持ちを相手に伝える】

今回、班長として活動するということがあります、「感謝の気持ちを相手に伝える」ということを意識しました。その中で、主に何事も笑顔で対応することを心がけました。理由としては、レース及びこの日産メカニックチャレンジは、販売会社様などの多くのスポンサー様に支援して頂いて活動できていま

す。それを前回参加した時の活動を通して学び、お越しくださる皆様に感謝の気持ちを届けたいと思ったからです。

一番印象に残っているのは、お手伝いでピットウォークに参加したことです。ここではピットまで来られたお客様やファンの方にハンカチやドリンクを「応援お願いします」と言葉と一緒にプレゼントしていました。そこでKONDO RACINGのファンの方に自分から話しかけました。ここまで身近に話せる機会はないということもあり、いろいろ話せたのがすごく楽しかったです。



こうして自分自身のスキルアップができるのはこの日産メカニックチャレンジの魅力だと言えます。普段の生活や授業では体験できないことができ、レースの知識がなくても絶対に楽しいと思える活動なので、積極的に参加して欲しいです！

担当：森岡



## 学生インタビュー（テクニカル領域）



テクニカル（3年）田中 雄太

### 【プロの技を間近に感じて】

少し緊張した気持ちでピット入りしました。一般ではまず入ることが出来ない環境で、チーフメカニックの「プロの技」を実際に間近で見れたのはとてもいい経験になりました。

その中で、私は主に2点、勉強になったことを紹介したいと思います。ひとつは、テクニカルスタッフの方が思うように作業が進められていないなか、メカニックの方が「その作業ができないのには何か原因があって、それを解決しない事には先には進めないよね」と言っていたことです。

2つ目は、私の使用している工具が他の作業の邪魔になっていたのに気づかず、ブレーキパッドの交換作業を行っていた時、離れたところで作業していたメカニックの方が指摘しに来たところです。この『冷静に物事を考える力』と『周りを見る力』がプロの世界では当たり前だなと感じたと同時に、自分にも取り入れていきたいと思いました。



こうした学びを現場の刺激を受けながら得ることが出来るのはこの日産メカニックチャレンジの、テクニカル領域の魅力だと言えます。私自身も「参加してよかった」と心から思える楽しい3日間を過ごせました。

担当：森岡



## テクニカル（2年）加納 愛奈

### 【積極的な行動】

最初は何をしたらいいのかわからず、不安な気持ちのままスタートしました。

それでも私はこの領域で、自分から行動することの大切さを学びました。ピットでは、未知の領域ということもあり、現場の緊張感に圧倒され、なかなか動きにくい場面が多々あります。しかしこの活動に参加したからには何かを得たいと思い、販売会社のテクニカルスタッフの方やチーフメカニックの方に率先して声をかけに行きました。すると、タイヤの清掃や車両のエアクリーナーの交換など、実際に作業を手伝わせて頂けるようになりました。更にはその各部品についての詳細や知識も教えて頂け、楽しく活動できました。この行動は社会に出ても必ず役に立つことなので、まずは学校でもできるように取り入れていきたいです。

（この文章は上記の段落と重複しています）

私自身、この活動で車に関してはもちろん、人としての学びを得ました。この気付く成長が日産メカニックチャレンジの魅力だと思います。ですので、今しかできないこの活動に、少しでも気持があるならぜひ参加して欲しいです！



担当：森岡



## ドライバーサポート（3年）

松下 颯汰

### 【チームスポーツ】

わくわくした気持ちでピット入りしました。

ホスピタリティ領域とテクニカル領域と体験してきた上でのドライバーサポートの魅力は、「KONDO RACING」の



チームのもっと奥を知れることです。

ホスピタリティ領域では接客力のスキルアップ、テクニカル領域ではチームの最前線を体験できます。そして、ドライバーサポートはドライバーのお手伝いもちろんなのですが、テクニカル領域とはまた違い、広い視野でピットを見渡せます。その為、レースはメカニックだけではなく、裏側にも多くの人関わっていることを知ることで、改めてチームスポーツなんだと感じることが出来ます。

私自身、この日産メカニックチャレンジに参加する前後で、コミュニケーション能力や授業への姿勢が変わったと身をもって感じています。こういった観戦するだけでは分からない裏側の世界を知ることができ、自分自身の成長を感じられるのは、このプロジェクトの魅力です！ですので、ぜひ積極的に参加して体験欲しいなと思っています！



担当：森岡





## レポートまとめ



このままどう終わるのか、不安が高まっていく波乱万丈と言えるようなレースでした。インタビューを経て、レース関係者は全員何かを意識して考えながら取り組んでいると感じました。当たり前の話かもしれませんが、ふと質問をしてすぐに返ってくるということはそれなりの覚悟がないとなかなか出来ることではありません。特に学生は得ることが多いということもあり、みな口を揃えて「自分自身の成長になる」と言い、この活動の特別さや有難さを伝えてくれました。私たち自身も身をもって感じています。

改めてという形にはなりますが、KONDO RACING TEAMを始め、日産自動車やスポンサー様、ファンの皆様など多くの応援があって、この活動は成り立っていることを学生一同、心より深く感謝致します。本当にありがとうございました！

広報：森岡、井上、池村

